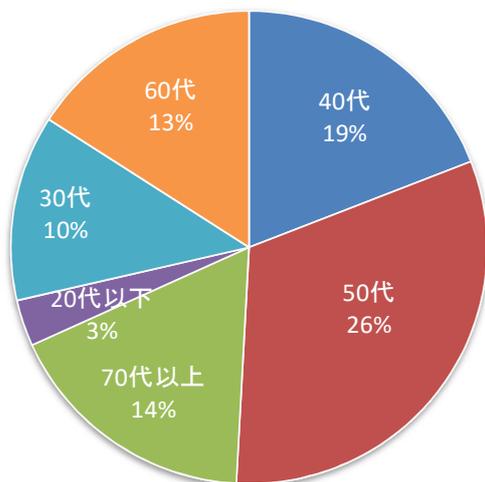


わがまちみらいマネジメント講座

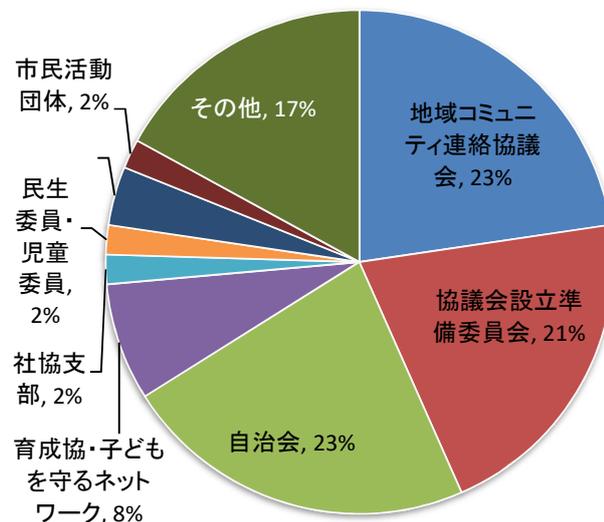
令和4年7月9日開催「想いを届ける”コミュニケーション”のコツ」アンケート結果

回答者39人（参加者44人）

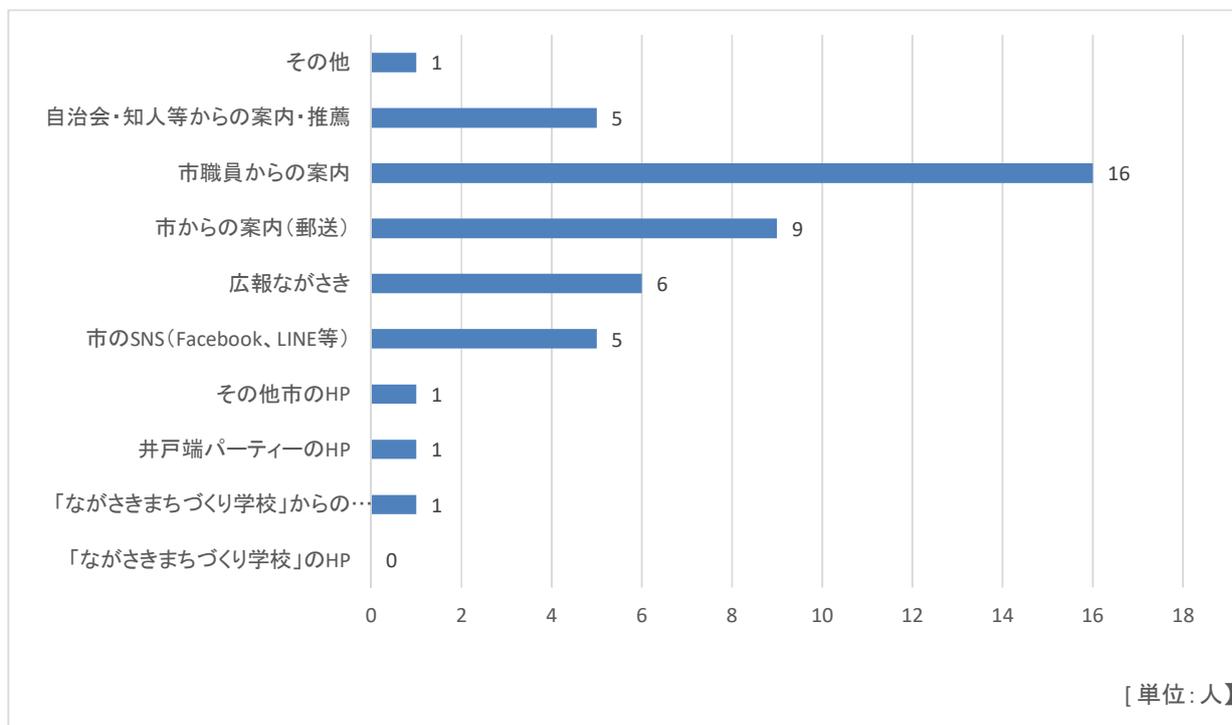
参加者 年代比率



参加者 団体比率

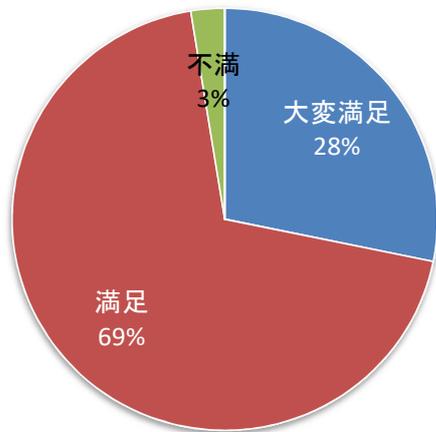


1 本日はどのようなきっかけでご来場されましたか？（複数回答可）

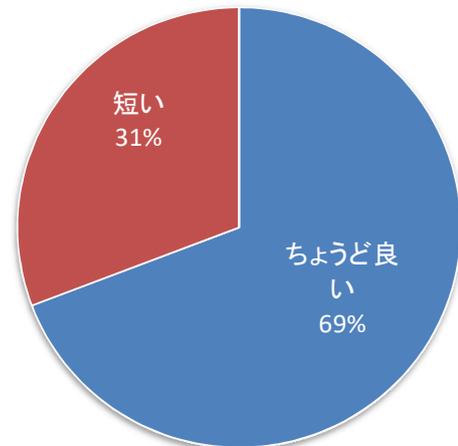


2 本日の講座の評価について、当てはまるものを選んでください。

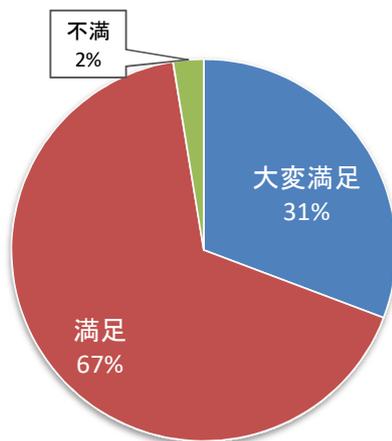
(1) 講座内容について



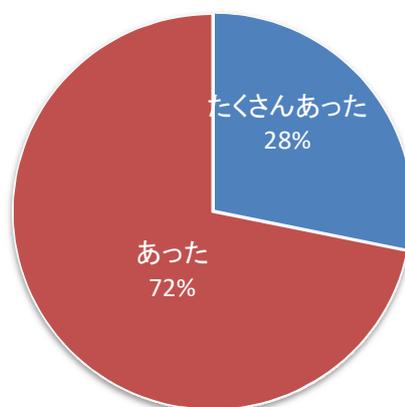
(2) 時間配分について



(3) 全体的に



3 新たな発見や活動の参考になることはありましたか？



4 新たな発見や活動の参考になったこと（自由記述）

内容
広報誌の作成に関し参考となる話が有った。
コミュニケーションとは何かという基本的なところ。ことばとことばの掛け合わせ。
イベントや活動の企画
言葉と言葉の組み合わせで面白い発想が生まれること
今回の講演は専門以外の方が違った観点から地域の町づくりに役立つ内容を説明していただき勉強になりました。例えば広報・チラシ等を作成する時にはアイデア・技術はもちろんの事ですが、相手側(見る側)の事を思い・考えて作成する話しには納得致しました。
魅力のある企画であれば、後はどう知らせるかを考えればよい。アイデアは、才能ではなく技術！常識にとらわれず、発想してみる。コミュニケーションは伝えること 相手の立場に立った言葉選びが大切
コミュニケーションに必要なものは 動かすこと・相手・目的・アイデアであること。アイデアを考える力、異なるものをくっつける発想法を身につけることが必要であること。情報発信については、目的、優先順位、揃えることが基本。自分が言いたいことを明確にする。相手が聞きたいことを考えるためにリサーチが必要。
アイデア先行思考の考え方で元電通マンらしい講義でした。広告のプロが伝えるチラシの重要性は説得力がありました。その辺は市役所の方はどう感じられたのでしょうか？
コミュニケーションは、相手に理解してもらうことから始まる。という言葉です。
広報誌の表題、言葉と言葉の組み合わせがヒントになった。
広報の仕方、やり方について大変勉強になった。
チラシ、広報誌を作成するときの方法。学んだ3つのステップを頭に入れて、今後のチラシ、広報誌の作成に役立てたい。
言葉と組み合わせることでアイデア・想像が生まれる。
・伝えるコツ ・発想のコツ
伝える技術
頭がなかなか硬いので、発想転換がなかなか出来ないのも、いい体験になった。
広報活動をして行く上で、受け手と発信する側で使い分ける文言があることなど。
「ミラクルワード」自分のボキャブラのなさに、おののいた！！日頃から頭をやわらかくして興味をもっていこうと思う。
今までの自分では有り得なかった視点や手法を得られた。
グループでのアイデアで、旅するゴミ袋（回覧板に添えて）は、面白く環境美化につながる。旅行会社のバスツアーでも考えてもらいたい。

積極的に発言する勇氣。
ミラクルワード、発想法。
思いついたことを表す方法。仕方。
言葉と言葉の組み合わせを常に考えること。
アイデアの出し方、アイデアに対しての立ち位置に気付きました。
ミラクルワードを利用したキャッチフレーズの作り方
アイデアの発送法
アイデアを出す時に使える技術としました。イベントを企画するときなどに、活用したい。
地域住民に対し、やる気にさせるためのキーワードについて考えさせられました。改めて言葉の力は大きいと感じました。
自分が伝えたいことを一方的に伝えるのではなく、相手が知りたいこと・興味があることを伝えることが大切。
興味がない広告は、99%無視されること。どうすれば、興味を惹かせることができるか、タイトルの考え方や記載の仕方など学べてよかった。
自分が言いたいことが相手が聞きたいこととは限らない。ヒヤリングやSNSで検索などして、相手の気持ちをリサーチすることの大切さ。
かけ合わせによるアイデアの作り方
コミュニケーションには、スキルが必要。忍耐強くやる必要がある。
まちづくりや自治会活動に活かせるコミュニケーションに関する知識、スキルや活用方法が学べました。
アイデアが出ない場合は、広告などで使用されている言葉をつける。
テキストの冊子をぜひ購入させていただきたいです。

5 今後学んでみたいこと（自由記述）

内容
<p>喫緊の課題であり 今後の地域活動を行う上で最大の課題でもある 地域活動に興味を持たれない（≠参加されない）地域の住民に対する具体的な働き掛けの方法或いは方策について具体例を挙げて説明、グループ討議等を実施願いたい。今回の様な講座は 一般的な方策の説明に終始しており 具体的に活動しているものとして 物足りない感じがします。例えば 若い人を地域活動に参加させる為に 最近の若い人趣向の傾向等から具体的なアクションプランの作成まで。或いは 自治会活動を活性化する為の 具体的な方策。（=加入しない人の加入しない理由→具体的なアクション…等）</p>
<p>地域でのまちづくりに取り組んでいくためには、そもそも長崎のまちが抱えている問題を学ぶことが必要だと思う。日本銀行長崎支店長時代に長崎経済について考えてこられた経験もある、長崎自動車(株)平家達史常勤顧問の講演など興味がある。</p>
<p>今回十分に聞けなかった広報の方法。費用の捻出の仕方。他団体との連携。団体や活動内容の拡大の方法。</p>
<p>SNSをはじめとした情報発信の技術を具体的に知りたい</p>
<p>わかりやすい効果のある情報発信力、アイデア発想力など。</p>
<p>20代、30代が積極的に町づくり活動している話はよく聞きますが、20代、30代が自治会に加入し、自治会内で積極的に活動している話は聞いたことがありません。20代の自治会長や、そんな人の話を聞いてみたいです。</p>
<p>若い方の参加を増やすには、自治会長の世代交代</p>
<p>イベントの企画、立案、チラシ作り</p>
<p>若い人達の参加率を増やすには…？</p>
<p>地域の方々から親しまれるチラシ、広報誌を作っていきたい。</p>
<p>周知活動方法</p>
<p>自分の仕事へ活かしたい。</p>
<p>円滑なコミュニケーションの取り方。言葉の選び方。</p>
<p>参加者を増加させるための施策・方法、今日も経験しましたが、まだまだだと思う。</p>
<p>防災・避難所運営について。</p>
<p>相手の気持ちに立って広報活動をしなくてですね。防災組織を立ち上げたので、避難所運営など用にタイムリーに伝えるツールとしてアプリを作りたいと思っています。そういったことを学びたい。</p>
<p>広報の手法</p>
<p>地域団体が主催する行事に、一人でも多く関心を持ってもらうためのヒントが欲しい。最近は無関心層が増えつつあるので。</p>
<p>高齢者と若い人達の連携方法（高齢者が多いため若い人が地域活動に消極的）。</p>
<p>地域・年代に早くよく伝わる方法。</p>
<p>参加、行動、意識</p>
<p>課題を見つけることが、多様性があってむずかしい。</p>
<p>周囲を巻き込む力について</p>
<p>通達文や案内文の作成に工夫をする。</p>
<p>まちづくり活動に関心のない方を取り込む方法</p>

内容

楽しく住民を巻き込む方法。

年配のじいちゃんたちに静かに話を聞いて貰う方法

広報活動と住民への周知方法、いかに巻き込んで動かしていくかを学べれば良い。

資金の調達の方法。どのような補助金、助成金、給付金があるのか。企業や個人からどのように資金的な支援を受けられるか。

コミュニケーションは技術ということで、鳥巣さんがまちづくり担当だったら、どのように地域に入り込んでいくのか、下準備は何をするのか教えてほしい。

老若男女参加できる楽しい活動について

まちづくりの活動で地域にお金を落とす仕組みづくり

楽しいまちづくりを実施するにはどうしたらいいか。（大変さを出してしまいがちだから）

自治会に活かせる長崎市や先進市町の制度について、学びたいです。

団体の連携。

6 その他、ご意見・ご要望、感想など（自由記述）

内容
地域活動が低調で 今後益々存続が危ぶまれる中で地域活動に参加しない人の原因、理由等を具体的に調査された報告書類があれば頂きたい。今後の活動に参考とする為。また 市内の地域活動（＝地域コミュニティ活動、自治会等）で非常に活性化できている地域がありましたらその成功例を具体的に教えて戴きたい。
今回の講演のように、違った分野からの専門家の話しから、地域活性化に役立つ事が多々あるように思います。またの機会を楽しみにしております。
オンラインで参加したが、こちらの問題もあったのかもしれないと思うが、途中で音声が聞こえないことがあった。11時半頃よりつながらなくなったので、最期まで参加できずに残念だった。
・ 2時間では短い。1日ばかりでもよいと思いました。実技というか実際のチラシ、広報紙づくりなどをとりいれてほしい。・ 講座の中で紹介された『アイデアの作り方』をさっそく購入しました。適確でドラマチックなアイデアの作成がコミュニケーションを成功させる鍵であると。70超えの頭でできるかどうかがんばってみたい。
講義の内容は良かったです。コミュニケーション力及びチラシ作成などは技術だ、鍛えていけばもっと上手くできるようになる、とのことでした。その通りかと思えます。その鍛えていった結果が、デザイナーさんや大手広告代理店の仕事なのかなと。だからチラシなどは専門分野の方に任せ（対価を払い）、地域の活動されてる方は、伝わるチラシ作りをできるようになることよりも、地域課題をしっかりと吸い上げ、地域に落とし込み、地域の組織をしっかりと機能させる事のほうが大事だと思います。
受講の最中に、他の会議に自動的に移動する現象が3度以上ありましたので、途中で受講をやめました。
地域で行うイベント等についてもいろいろな情報を元に知恵を出し合っていく大切さを学んだ。アイデアは才能ではなく技術だということも学んだ。
意見交換・発表・参加主体の会もおもしろい。テキストがあつたらいい。その中から参考例が出て来る。見えない。書き取れない。
受付期間と申込期間の使い方。自分の立場で言うか、相手の立場になるのか。がよく分かりました。
楽しく参加させていただきました。
ハイブリット開催、うまくやられていたと思います。リアル開催場所で、ミラクルカードの活用の仕方が？の人がいたので、テーブルを職員が回って、ヒントをだしたり、そんなフォローがあればもっとよかった。

内容

ワークの進行や時間配分が雑な感じがしました。自己紹介のときも話しの長い人が先に話して、後の人が話せませんでした。時間をコントロールしながら、ワークや講義に集中させてほしいと思います。レジュメ、資料がなかったため、スライドの写真を撮ったりしましたが、これも、講義に集中できなくなる原因になるので、紙などで配布して頂きたいと思います。ワーク自体は面白かったので、残念です。

考えさせられる部分が多かった。あと、説明に利用したパワーポイント等を送って貰うと有り難い。

とてもわかりやすかったです。コミュニティとして活動する上で「相手のことを考える」という大事なことを気づかされました。誰のためにやっているのか？ひとりよがりにならないように気をつけないといけないと思いました。

グループワークをすることの周知が前日で遅かったので、オンライン参加の人達は突然グループ分けされて驚いたと思う。まだ、参加者名簿などあったら、画面表示がなく声だけの人とのやり取り（呼びかけ）がしやすかった気がする。そして、グループワークの時間終了まで1分など表示してもらえるといい。

集合とオンラインのハイブリッド型はとても助かります。

充実した内容でした。少し時間が不足し、用意された内容をカットせざるを得ないようでしたので、受講者間の時間を減らしていただきたかったです。